

令和5年度 全国学力学習状況調査 結果

〔4月18日実施 対象：第3学年〕

今回の結果では、前回（令和4年度）と同様に、調査が行われた国語及び数学において、全国・群馬県の平均を大きく上回る結果となりました。また、学力差を表す数値が低く、校内の学力差が小さいといえます。今回実施された国語、数学及び英語の3教科における本校の結果について概要をお知らせします。

【国語】

全ての問題において、全国・群馬県の平均を大きく上回る高い正答率でした。本校の生徒が学習指導要領の内容をしっかりと身につけていると言える結果でした。特に、全国平均と比較して著しく正答率の高かった問題として、「漢字の書き取り」「レポートの推敲」「具体的情報と抽象的情報の判別」などが挙げられます。知識及び技能だけではなく、思考力・判断力・表現力も、日々の授業を通して着実に高められていることが分かります。また、特筆すべき点として、いずれの問題も無回答で済ませる生徒がほとんどおらず、難しい問題に対しても、最後まで粘り強く取り組む姿勢が身に付いていると言えます。そのことは、学習状況調査において、解答を文章で書く問題について「どのように解答しましたか」という質問に対し、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた生徒が95.9%であることから伺えます（全国・県の平均いずれも80%未満）。また、本調査の「解答時間が十分だった」と感じている生徒の割合も全国・県平均を上回っており、解答に必要な基礎学力が概ね身に付いていると考えられます。

一方で、全国・県の平均よりも高い正答率でしたが、相対的に正答率が低かったのは、意見と根拠との関係について理解しているかどうかをみる問題です。今後の授業において、文章の中に含まれる意見と根拠がどのように結びついているかを捉えさせたり、根拠を明確にして意見文を書かせたりすることで改善していく必要があると考えています。

【数学】

数と式、図形、関数、データの活用の4つの分野のほぼ全てにおいて、全国平均正答率を上回る結果となりました。特に「説明する」「証明する」などの問題においては、全国平均正答率から30ポイント近く上回る結果となりました。本校での学習活動を通じて、自分の考えを筋道立てて表現する力が育まれていることが読み取れます。

学習状況調査からは「数学の勉強は好きである」の質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒は65%以上となりました。また、「数学の勉強は大切だと思いますか」の質問に対しては、全国平均回答率と比べて35ポイント以上高い割合で「当てはまる」と答えています。数学の授業に対して意欲的に取り組みながら、数学の有用性を実感できている生徒が多いことがわかります。

一方で、与えられたデータから四分位範囲を求めるといふ、基本的な知識があれば求められる問題の正答率のみ、全国平均正答率を下回っていました。復習しないと忘れてしまいがちな内容ですが、今後は機会を見て復習の時間を設けたり、数学の有用性をより一層感じさせることで内容を定着させたりすることで、これからの時代に求められる学力の伸長を目指していきたいと考えています。

【英語】

調査の全体を通して、全国・群馬県の正答率よりもすべての領域において高い正答率となっています。特に全国・群馬県の正答率が最も低い「書くこと」の領域において、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書いたり、学校生活を説明するまとまりのある文章を書いたりする問題で全国正答率を大幅に上回る結果となっており、1年生から一貫して取り組んできた英語を「書く」活動が着実に力となっていることが伺えます。

生徒質問紙調査から、「英語の勉強は大切だと思う」「英語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う」という項目に多くの生徒が「そう思う」と答えており、意欲的に取り組んでいる生徒が多いことがわかります。また1・2年生時の授業で「概要や要点をとらえる活動」「スピーチ・プレゼンテーションなどのまとまった内容を英語で発表する活動」「自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動」が行われていたと感じている生徒もとても多く、これまでの授業で学習してきたことが身につけていると考えられます。

一方で、「英文を読み、その概要として最も適切な問題を選択する」問題において、他の問題と比べると若干の課題が残りました。今後の授業の中で、英語を読む場面において、概要をとらえるとともに、正確に文章を読み進める力をつけられるような学習活動を工夫する等、更なる学力の伸長を目指したいと考えます。

【全体総括】

学力調査を実施した国語、数学、英語のすべての教科の平均正答率について、全国や群馬県の値を20～30%上回る結果となりました。今後も日頃の授業の取り組みを通して、学習内容を充実させ、生徒にとって深い学びにつながっていくようにしていきたいと思えます。

学力調査と並行して実施した学習状況調査の結果について、全国や群馬県との平均値と比較した際の特徴的な内容をまとめます。「休日の学習時間について」は4時間以上の学習をすると回答した生徒が平均から約15%上回りました。各自が目的意識を持ち、意欲的に学習に取り組んでいることが伝わります。「学習中でのICT機器の活用について」は役に立つと回答した生徒が平均から約40%上回りました。コロナ禍前から本校が意識していたICT機器の活用促進について、一段と加速したことが伺えます。「総合的な学習の時間について」は自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表したと回答した生徒が平均から約30%上回りました。1年次からの、みらい探究の活動を軸とする本校の取り組みが充実していることが読み取れます。

一方で、「将来の夢や目標を持っていますか」は平均を下回り、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」については平均と同値でした。日々の面談等を通して、多くの職員が多くの生徒と関わることにより、生徒の自己肯定感を高めることができるようにしていきたいと考えています。